

911.3
八

俳諧三十六歌仙



佛仙集叙



時

也風

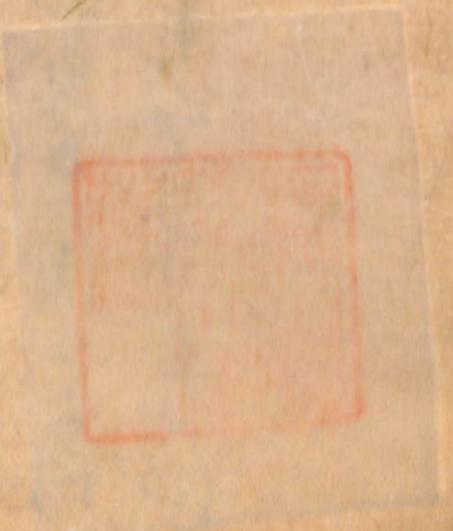
雅何乃

とんは是

中

一

俳句集叙



川流甚急舟よ邪しく入る
時公羽衣の白馬は何れも好
也風雅のこころのむとゆり風
雅何れもあつらふ事や馬のそめ好
と出づ是とのほろあやうりて
中々もあつらふ事や馬のそめ好
一筋のそめもあつらふ事や馬のそめ好

舊の
此を
逆

初音

具角



あまらう、まねう



神志
功也

東山

嵐雪



十國子七

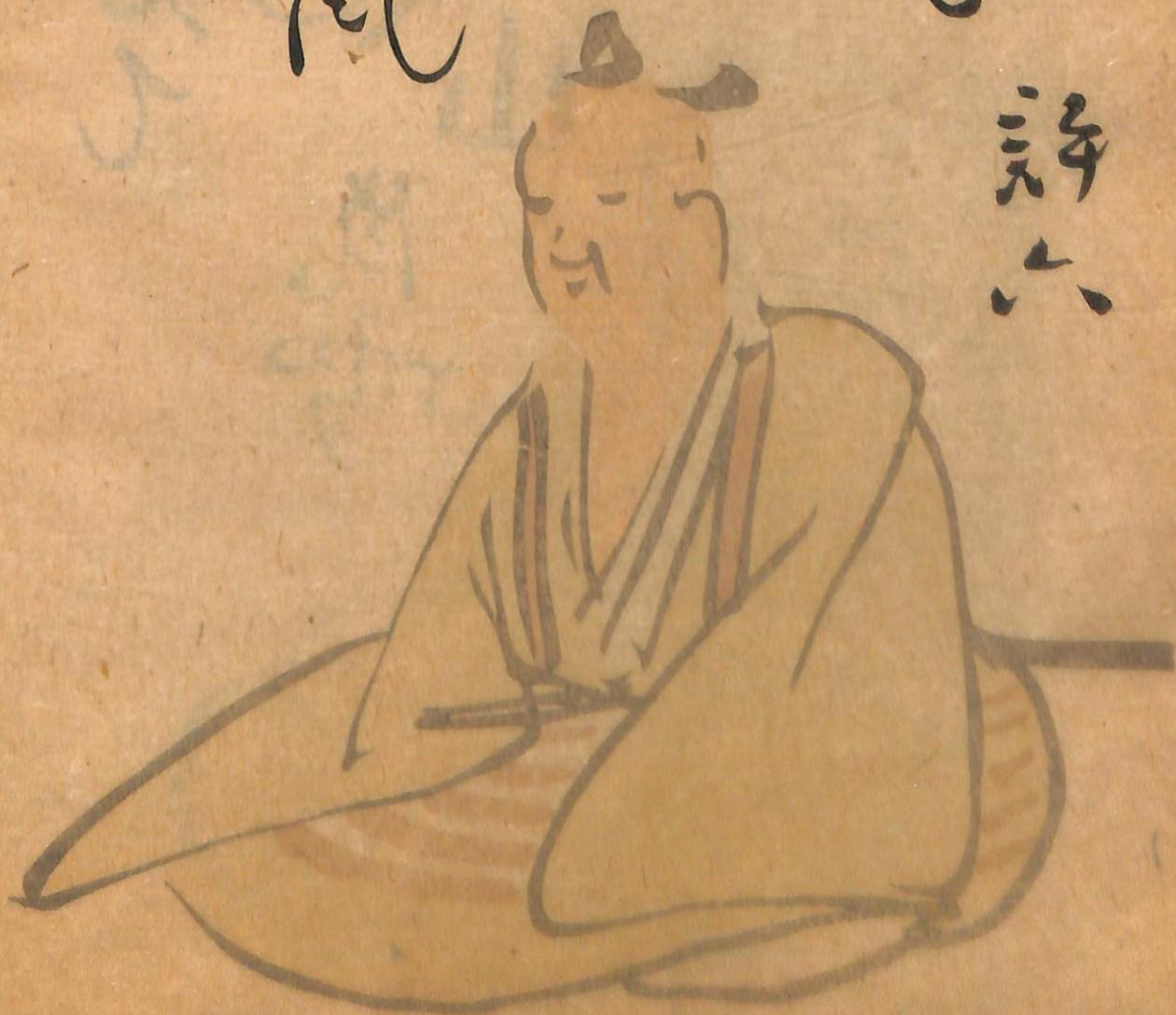
小粒の

朱のぬ

秋

風

詩六



あふらむ
まじりの
まじり草

秋風





Handwritten text in a cursive script, likely a name or title, positioned to the right of the drawing.

Small handwritten text or a signature located below the main title.



Large handwritten text in a cursive script, positioned to the right of the drawing.

Small handwritten text or a signature located below the main title.

町
鳥

か
ま

誰
と
高
白



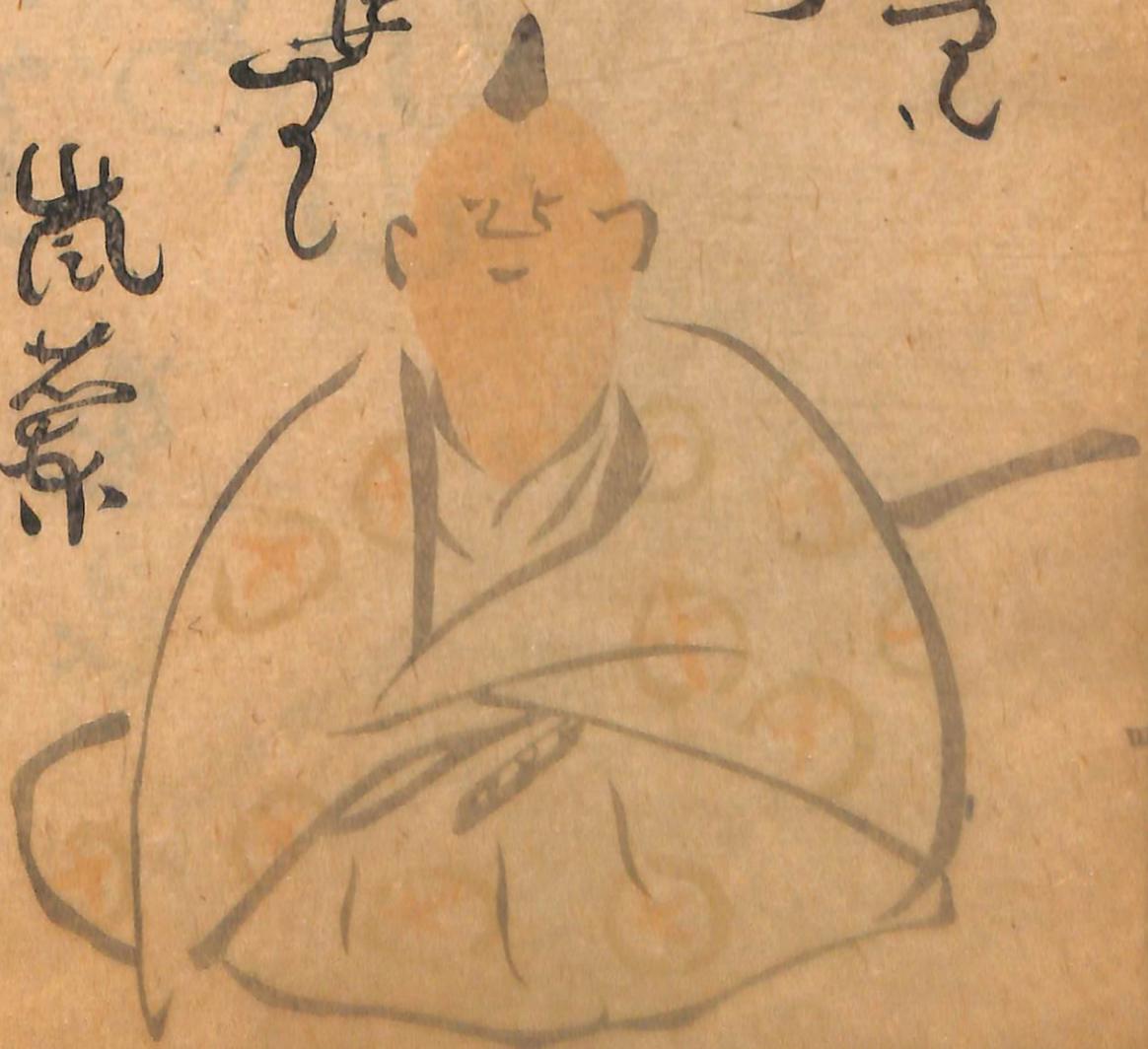
る
の
口
き

親
し

の

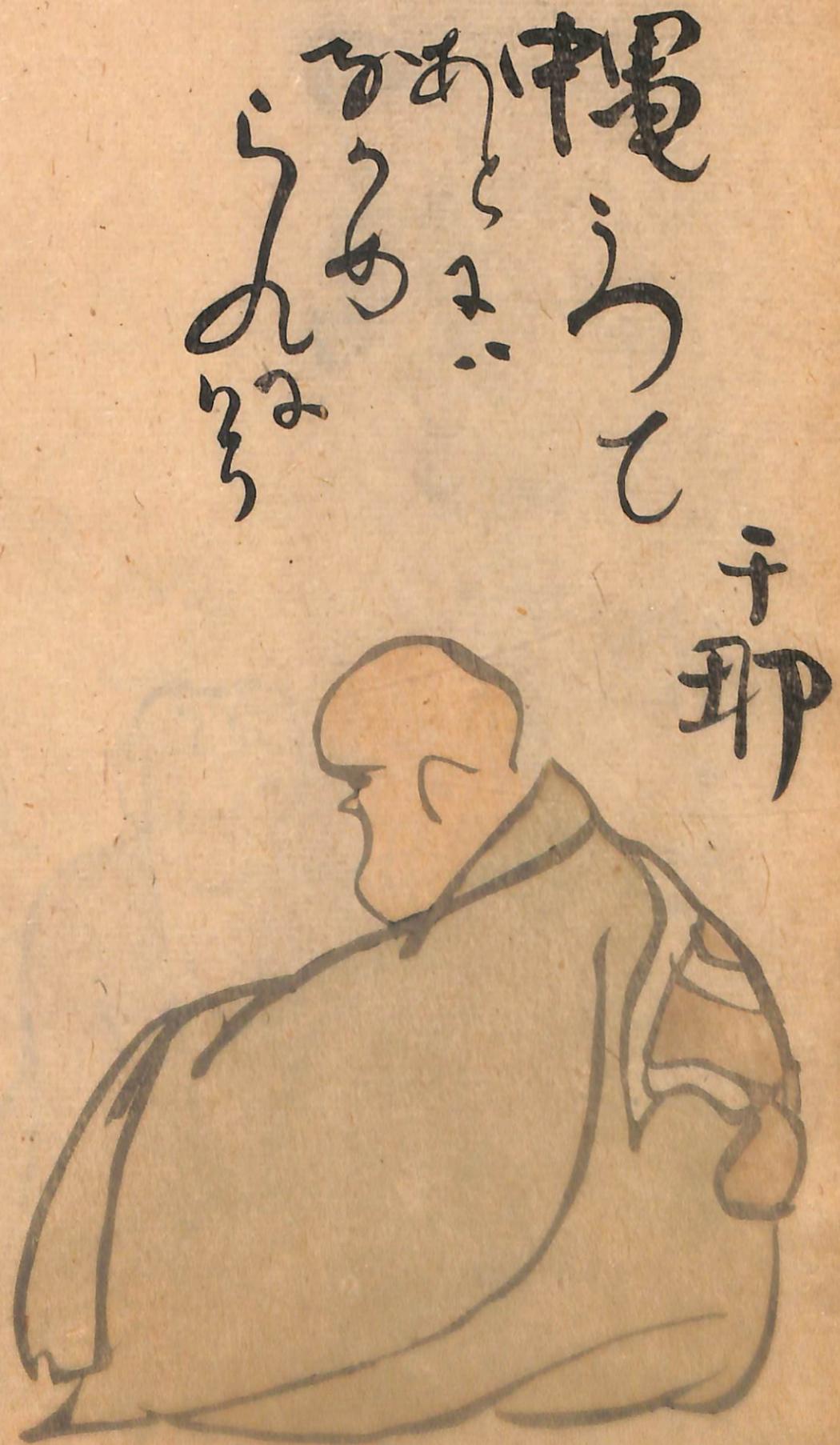
き

花
家





吃食の
 乃雪
 李由



中電
 乃雪
 李由



女
子
の
姿
を
写
す
に
あ
ら
は
せ
し
ま
す



女
子
の
姿
を
写
す
に
あ
ら
は
せ
し
ま
す



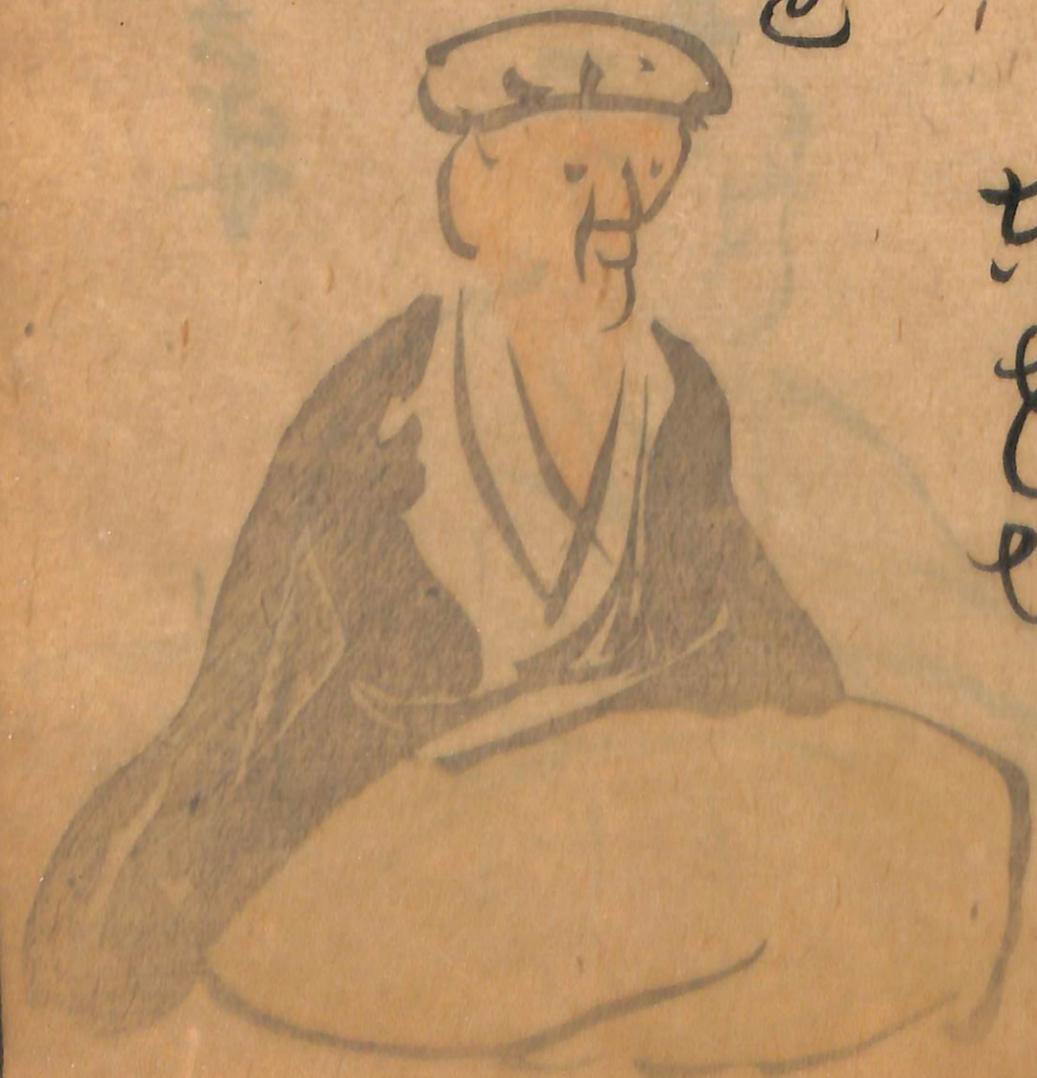
晴
夜
思
花
子
心



晴
夜
思
花
子
心

物
の
思
仲
子
口
大
野
子
名
を
日
得
る

東
也
坊



市
仲
の
思
舟
舟
凡
也



湖の池

草

まぢる

中

月



はら

糸の湖

ま

はら



大のくと
鴉くろあや
好

富の春



来り

はり
う

露川



風神
おに
かみ
かみ
かみ

北
極



かみ
かみ
かみ
かみ
かみ

北
極



日
の
国
を
正
秀
暑
な
ら
ば
ち



お
ま
り
な
ら
ば

お
ま
り
な
ら
ば

お
ま
り
な
ら
ば

お
ま
り
な
ら
ば

かろき氏の
中

祝

猿



京
牛
お
お

酒



久々
心
つ
ま
ま
た
ま

本節



霜の相
ま
き
う
ま
ま
ま
ま

壯威



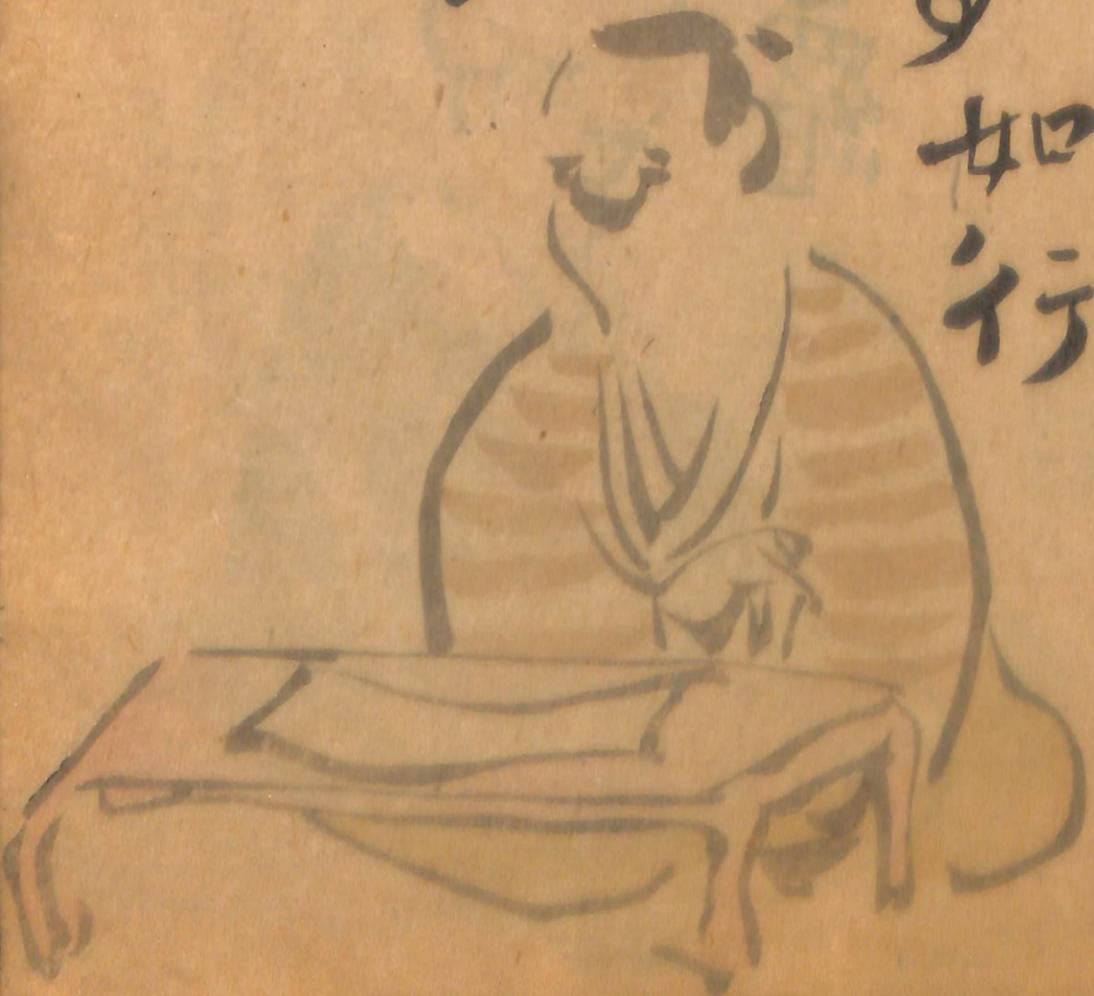
鈴
抑
似
お
の
ま
の
ま
の
こ
の
ま



し
親
子
を
養
ふ
事
也
か
く
し
し
は
誅
く



目初
如行
月
宿
月
宿



帝
身
ち

昔蘇



志賀乃を
湖の水
すれな

素堂



燕代
物
音羅



寛政十一己未年

京都書林

大坂書林

野田治兵衛

心齋橋筋北久太郎町

鹽屋忠兵衛

同

唐物町

河内屋太助

明治三十九年八月五日印刷
 明治三十九年八月五日發行
 發行所
 校訂者
 印刷者
 東都 金尾文洲堂
 京都 五郎在衛町廿三番地
 金尾種次郎

